

# 第二步

## 「それでも学びたい」データで見る 入院中の高校生のリアル

6割超が就学支援制度を使えない現状。でも、教育への熱意は高い！

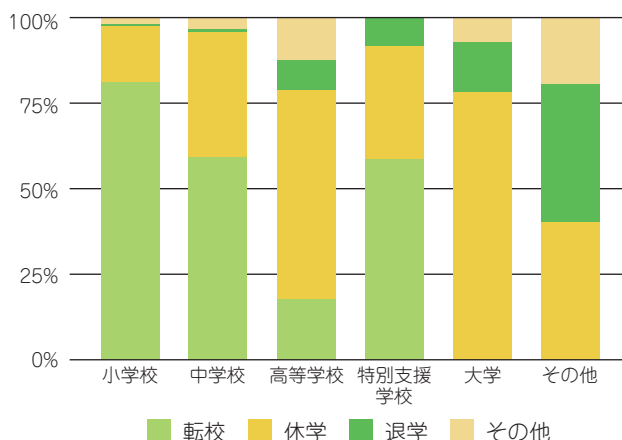
ここでは国立がん研究センターの調査から高校生の置かれている状況をみていきます。

1

### 休学・退学の割合 がとても高い

がんと診断された小・中学生のうち学校を「転校」した人がそれぞれ81.1%、59.3%と最多でしたが、高校生では「休学」した人が61.3%と最多でした。また、「退学」した人は小・中学生では1%未満ですが、「高等学校」では8.8%ととても高い値でした。高校生は転校する先がほとんどなく、休学・退学を選択する割合がとても高くなっています。

転校・休学・退学の経験



2

### 勉強したくても就学支援制度 の利用ができない！

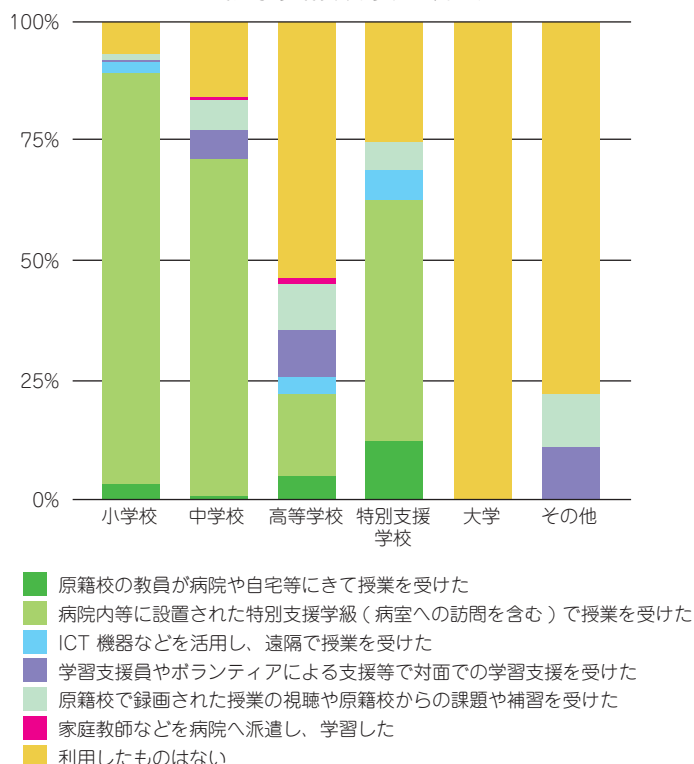
転校・休学・退学した小中高生のうち、治療中に何らかの就学支援制度を利用した人は75.9%です。

その内容としては①原籍校の教員が病院や自宅等にきて授業を受けた②病院内等に設置された特別支援学級（病室への訪問を含む）で授業を受けた③ICT 機器などを活用し、遠隔で授業を受けた④学習支援員やボランティアによる支援等で対面での学習支援を受けた⑤原籍校で録画された授業の視聴や原籍校からの課題や補習を受けた⑥家庭教師などを病院へ派遣し、学習した⑦利用したものはないです。

小中学生の②いわゆる院内学級の利用は90.7%、77.6%と高い値です。しかし高校生は⑦利用したものはない61.1%が最高値であり、②いわゆる院内学級の利用19.4%、④学習支援員やボランティアによる支援等⑤原籍校で録画された授業の視聴・課題や補習が11.1%と続きます。

高校生が確実に学力をつけるための学習環境は整備がされておらず、各自治体や学校・支援団体などのシステム・熱意などでばらつきがあることが分かります。高校生の6割程度は学ぶ権利を失った状態です。

就学支援制度の利用

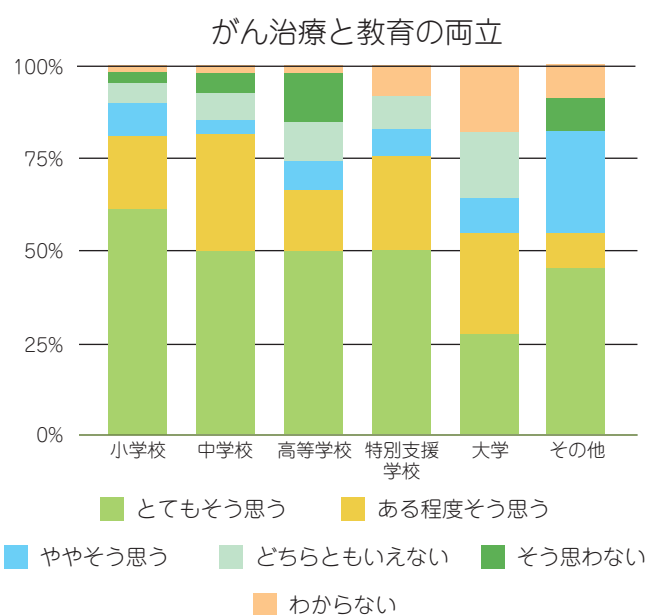


## 3

## 治療中の勉強は学校の 配慮があっても難しい・・・ それでも学びたい！！

「治療中に、学校や教育関係者から治療と教育を両方続けられるような配慮があったか」の問いに対し、「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人は76.6%です。

校種別に見たとき、小学校80.9%、中学校81.1%、高校66.3%と高校の値が下がります。高校生の治療と学習の両立の難しさを表しています。



「がん」という病気に例をとってみましたが、高等教育で学ぶ3年間がその後の将来を大きく左右する期間でありながら、病気と治療のために十分な支援を受けることなく将来をあきらめている高校生が全国に多数存在していることが分かります。

「厚生労働省委託事業 国立がん研究センター『小児患者体験調査報告書』令和3年3月」抜粋